

3月11日、午後2時46分。皆さんは、どこで何をしていましたか？

きっと、皆さん一人ひとりにいつもの日常があったはずですよ。

私はちょうど午前の娘の中学卒業式を終え、本庁3Fの委員会室で全員協議会をしておりました。その最中、津波注意報が発令され、即津波警報に変わり、そして大津波警報が発令となりました。美波町にとっても初めてのことで、揺ってもいないのに津波？という思いは、やはりどこかでありました。

議会事務局の控室で、津波によって何百台、何千台という車が、木の葉のように押し流される映像を見なければ、避難さえしなかったかもしれません。

あの映像を見た瞬間に初めて、「これは普通じゃない！」という恐怖を感じ、急いで木岐に戻り、家族と避難しました。

そして、95歳のおじいちゃんを避難させるには、時間も人も必要だということに気づきました。

震災から3ヶ月たった今もなお、行方不明者は8000人余り、避難所生活をされている方は、約4万1000人、親類・知人宅、ホテル、仮設住宅も含めると12万を超える国民が自分たちの家を離れて生活しています。6月10日時点で、死者は15405人。避難所での自殺、環境悪化からの死亡も増えています。

阪神大震災がきっかけとなって、国の防災対策も格段に進んだはずなのに、どうしてこんなに復旧が遅れているのか、遠く離れた地ではありますが、日々、不満と心配でいっぱいです。

でも、決して他人事ではないのです。映像で見る被災地の姿は、明日の私たちの姿かもしれない。私自身、震災発生から数日間はただただショックなばかりだったのですが、ある日、このままでは同等のものが来た時に、この町はなくなってしまう！救える命も救えなくなってしまう！と強烈に思ったのです。

ちょうどそのとき、野口さんも同じような思いでいることを知って、女子ならではの目線で既存組織の枠を外して、新たな会を作りたいと考えるようになりました。

同じ美波町で暮らす女子が寄り合って、課題をくみ上げ、提言し、自らも行動する。

現在、美波町の自主防災組織は各町内会ごと100%の組織率で、これは他市町村に比べても、かなり進んでいます。しかし、やっぱりどこか男性主体になっていないか、何かの訓練にしても消防団中心になってしまうことも多いため、女性の防災意識というものはおしなべて低いのではないかと考えています。

だからこそ今、女子会が必要だと思うのです。

女子会が核となって何らかのイベントを企画し、協働でいろいろな地区の自主防災組織と連携するということも考えられるし、生活圏が狭くなりやすい子育て世代にも、ML等を通して、情報収集、情報発信の場として活用してもらいたいという思いもあります。

今、産声をあげたばかりの「防災若草会」です。

皆さんお一人お一人の温かい手と、会員全員の思いを結集して、この会を育てていただけたらと思います。

私たちのこの活動がきっかけとなって、ひとりでも多くの命が守れますように。